

モンゴルの「国家ナーダム」の変容——節会から政治文化へ

モンゴルの「国家ナーダム(相撲・競馬・弓矢の三競技)」は、「モンゴルの伝統的な祭典」として2010年にユネスコの無形文化遺産に登録されている。「国家ナーダム」はもともと、ボグド・ハーン(第八世ジェプツンダンバ・ホトクト)の延命長寿を祈願するダンシグ修会に付随する「ダンシグ・ナーダム」であったが、1921年の人民革命後、人民革命の勝利を祝う「国家ナーダム」へと作り変えられ、民主化以降も引き続き、人民革命の勝利を祝う「国家ナーダム」として今日に至っている。一方、民主化以降、「ダンシグ・ナーダム」の復活も見られ、2015年夏には、第一世ジェプツンダンバ・ホトクト生誕380周年記念祝典の行事として「ダンシグ・ナーダム」が執り行なわれ、「ダンシグ・ナーダム」を恒例行事化する決定が出されている。今回の発表では、社会主義期と民主化期、それぞれにおける伝統的な文化の形成に焦点をあて、ナーダムの変容と政治文化としての展開について紹介する。